

<様式（研究成果情報）>

[成果情報名]新品種 ‘瑞季’、‘汐里’は伊豆地域で栽培されるカンキツとして有望である

[要 約] 広島県などが育成した瑞季’および‘汐里’は、中晩生カンキツ産地である伊豆地域の果樹品種として有望である。定植直後からの周年マルチ点滴かん水同時施肥法（マルドリ方式）により、定植2年目からの収穫が可能となる。

[キーワード] ‘瑞季’、‘汐里’、早期成園化、マルドリ

[担 当] 静岡農林技研・伊豆研セ・生育・加工技術科

[連絡先] 電話 0557-95-2341、電子メール agriizu@pref. shizuoka. lg. jp

[区 分] 果樹

[分 類] 技術・普及

[背景・ねらい]

伊豆地域では‘ヒュウガナツ’をはじめとした多様な中晩柑類を生産しているが、3月期に出荷できるカンキツが少ない。そこで、広島県などが育成した3月に出荷可能な晩生カンキツ新品種‘瑞季’および‘汐里’について、伊豆地域での適応性を検証するとともに、産地化を加速させるための早期成園化技術を検証する。

[成果の内容・特徴]

- 1 ‘瑞季’は「水晶文旦」を種子親、‘汐里’は四倍体ヒュウガナツを種子親として育成された品種である。いずれも果皮は黄色、‘瑞季’は1果重500g程度、‘汐里’は400g程度と大型で（図1、表1）、‘瑞季’は無核性を有し、‘汐里’は種子が少ない品種である。かいよう病については抵抗性品種である‘ヒュウガナツ’とほぼ同等である。
- 2 ‘瑞季’は1～2月に収穫し3～4月まで貯蔵することで、果皮障害を回避することが可能である。定植3年後の3月における‘瑞季’は糖、酸がともに高く食味は良好で（表1）、貯蔵果も収穫直後は酸が高いが、徐々に減少し食味が良好となる。貯蔵中の腐敗や果実品質の劣化は見られない。‘汐里’は3月に完全着色し、糖酸のバランスが良く食味は良好である。‘瑞季’は果皮ごと食すことが可能である。
- 3 定植直後からの周年マルチ点滴かん水同時施肥法（マルチ被覆とドリップかん水チューブを使用した栽培：マルドリ方式）と2本の主枝を誘引する双幹形仕立てにより、‘瑞季’では定植初期に樹冠が拡大する（図2）。
- 4 マルドリ方式の導入により、両品種とも2年生苗木の定植2年後に果実の収穫が可能となり、定植4年後までは合計収量が慣行栽培より多く推移する（表1）。
- 5 マルドリ方式の導入により、不完全種子数が増加する傾向がみられる（表1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 ‘瑞季’は広島県および京都大学、‘汐里’は広島県が育成した品種で、導入には育成権者との栽培許諾契約の締結が必要である。
- 2 ‘瑞季’‘汐里’とも広島県および京都大学大学院農学研究科付属農場が栽培マニュアルをウェブ上で公開している。

[具体的データ]

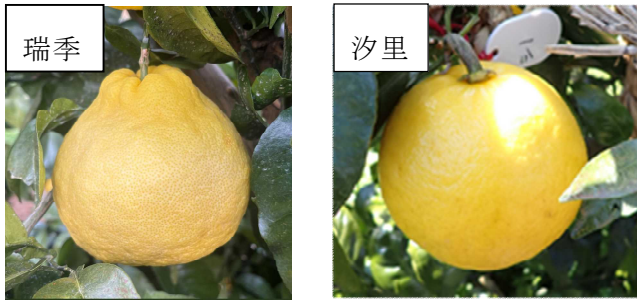


図1 ‘瑞季’および‘汐里’の果実外観

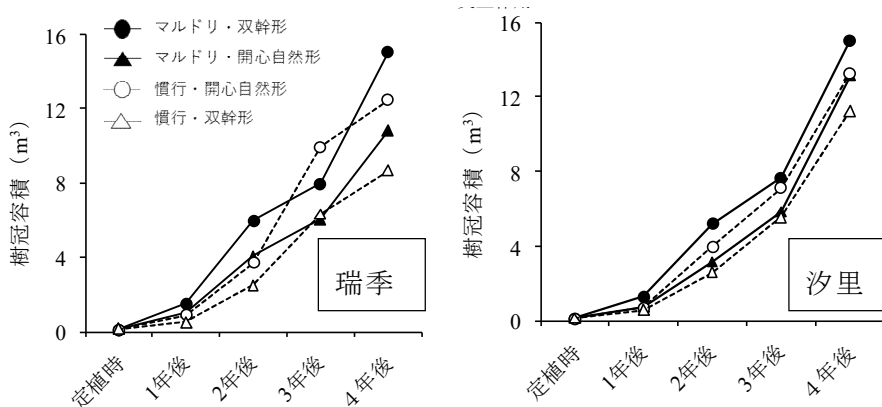


図2 双幹形仕立ておよびマルドリ方式が‘瑞季’および‘汐里’の定植4年後までの樹冠容積に及ぼす影響

表1 栽培法別の‘瑞季’及び‘汐里’の定植4年後までの収量と定植3年後の果実品質

品種	栽培法	収量 (kg/樹)			果実品質			
		定植2年後	定植3年後	定植4年後	果実重 (g)	種子数 (個/果)	糖度 (Brix%)	酸度 (%)
瑞季	マルドリ	2.0	17.9	16.4	556	9.5	12.4	1.80
	慣行	0.0	0.9	10.8	485	0.0	10.1	1.62
汐里	マルドリ	0.3	10.2	12.8	417	2.4	11.1	1.34
	慣行	0.0	0.3	6.4	397	1.3	9.9	1.20

[その他]

研究課題名：多様な販売形態に活用できる果樹新品種の育成・選抜と早期成園化技術の開発

予算区分：県単、国庫

研究期間：2021年～2025年

研究担当者：浜部直哉、石下春咲、前田未野里

発表論文等：イノベーション創出強化研究推進事業等の成果集「無核性カンキツ新品種「瑞季」等の全国展開に向けた高品質安定生産及び高度利用技術の開発」(2024)